

地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域1 高精度放射線治療を担う人材の育成「ワークショップ1」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域1「高精度放射線治療を担う人材の育成」において、「ワークショップ1」を開催しました。



ワークショップ1

1月 23 日 (金) 18:30~19:50 (Zoom 開催)

テーマ「参加各施設の放射線治療領域の現状と問題点 -マシン QA-」

講師：黒河 千恵先生、井上 達也先生（順天堂大学）

野武 亮一先生（東京科学大学）、松元 佳嗣先生（東海大学）

座長：河野 良介先生（国際医療福祉大学）、飯島 康太郎先生（順天堂大学）

要旨：高精度放射線治療を安全に実施するためには、治療装置（リニアック）の性能を適切に維持・管理することが不可欠であり、定期的なマシン QA は強く推奨される重要なプロセスです。マシン QA の項目や頻度、許容値、測定方法は、各施設の装置や運用体制、測定機器、治療技術により異なるため、標準化と効率化の両立が継続的な課題となっています。

本ワークショップでは先ず、マシン QA の基本概念と、4種類のリニアックの日毎／月毎／年毎における代表的な点検項目について、講師の方に講演をして頂きました。その後、参加者より自施設での実務上の問題点を挙げて頂き、効率的な QA 方法など今後の施設運用の改善策について議論をしました。

参加者は 124 名でした。

地域に定着する放射線治療医養成 WG

領域1 高精度放射線治療を担う人材の育成「ワークショップ2」を開催しました

地域に定着する放射線治療医養成 WG が開講する、緩和的放射線治療・密封小線源治療・高精度放射線治療の質の向上と普及を担う人材養成コース
領域1「高精度放射線治療を担う人材の育成」において、「ワークショップ2」を開催しました。



ワークショップ2

1月29日（木）18：30～19：50（Zoom開催）

テーマ「IGRTのタスクシフトを放射線腫瘍医と考える」

講師：小杉 康夫先生（順天堂大学）、広木 智之先生（東海大学）

高橋 太郎先生（がん研有明病院）、水野 将人先生（杏林大学）

座長：野武 亮一先生（東京科学大学）

要旨：放射線治療を安全に実施するためには、画像誘導放射線治療（IGRT）による正確な患者位置照合を行い、日々の幾何学的な不確かさを管理することが不可欠です。一方で、治療装置の高精度化に伴い、IGRT に関連する業務の負担は増大しており、限られた人員の中で品質を担保する運用体制の整備が課題となっています。このような背景から、放射線腫瘍医と診療放射線技師の役割分担を明確化し、標準化された手順と教育体制のもとで IGRT 業務の一部を適切に移管する「タスクシフト」が注目されています。

本ワークショップでは、IGRT のタスクシフトの現状と課題、ハイボリュームセンターにおける診療放射線技師の IGRT 教育について講義を行いました。その後、参加施設より集めた IGRT のタスクシフトに関するアンケート結果から、本邦における IGRT の運用状況を共有し、放射線腫瘍医と診療放射線技師がタスクシフトを進める上で重要となる実務上の課題と対策を議論しました。

参加者は 150 名でした。